

水稻の生育状況（移植）

ここ最近の高温少雨により稲体活力が消耗しており、「五百万石」の出穂前葉色は目標に満たないほ場が多くなっています。足跡の水を切らさないように水管理を徹底し、積極的に追肥を施用しましょう。また、出穂期は平年より1日早い7月16日頃（7/14頃～7/20頃）と予想されます。必ず出穂期を確認し、適期に防除しましょう。

「コシヒカリ」の草丈は平年より長く、茎数は並み、葉齢は約1葉早く進展しており、幼穂形成期は平年より3日早い7月8日頃（7/4頃～7/15頃）と予想されます。特別栽培米の穂肥は必ず幼穂形成期を確認し、適切（施用時期、施用量）に施用しましょう。

生育調査データを掲載しています。（JAなんとホームページ）→

<なんと担い手組織協議会 事務局調査結果 移植（令和7年7月7日）>



品 種	田植日		草丈 (cm)		茎数 (本/㎡)		葉色		葉齢 (葉)		幼穂形成期 (予想)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
コシヒカリ	5/11	5/12	78.6	68.2	439	437	4.0	4.0	12.6	11.5	(7/8)	7/11

当面の管理のポイント

1 水管理 ～足跡の水は切らさない！～

- ・ 幼穂形成期以降は「間断かん水」から「**飽水管理**」に切り替え、上根の伸長と維持を図り、**葉色の低下を防ぎましょう**。
特に「てんこもり」は干しすぎに注意しましょう。
- ただし、「コシヒカリ」で草丈が長いなど生育量が多いほ場は「間断かん水」としましょう。
- ・ 出穂後20日間は「湛水管理」を徹底しましょう。



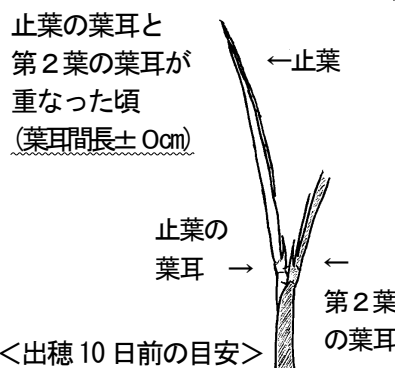
山際を中心に干しすぎのほ場が多くみられます。水吐板は外さず、もう少し入水しましょう。

2 追加穂肥（基肥一発肥料を使用している場合）

（1）コシヒカリ

- ・ 以下の場合には追肥しましょう。

追肥診断の目安（移植）		追肥	
確認時期	葉色	施用時期	施用量
出穂10日前（7月20日頃）	4.0未満	出穂3日前（走り穂）まで	追肥3号 7kg/10a



（2）てんこもり

- ・ 以下の場合には追肥しましょう。また、**干しすぎは葉色が低下するため、注意しましょう**。

生育の目安（移植）		追肥	
時期（移植）	葉色	施用時期	施用量（追肥3号）
幼穂形成期前後（7月12日頃）	4.0未満	すぐに	7kg/10a
出穂7～10日前（7月26日頃）	4.3未満	出穂3日前（走り穂）まで	10kg/10a

※詳細については【営農のてびき】を参照して下さい。

お問い合わせは、JA なんと営農部(62-0261)または砺波農林振興センター(32-8147)へ

3 穂肥（分施肥体系の場合） ～ 1 回目の穂肥は遅れずに施用～

（1）コシヒカリ

- 必ず「幼穂長」、「草丈・茎数」、「葉色」を確認し、適切に穂肥を施用しましょう。
 - 草丈が長い、茎数が多いなど生育量が大きい場合は、1 回目は慎重に施用しましょう。
- また、葉色が淡い場合は 2 回目を 15kg/10a と多く施用しましょう。

＜穂肥施用の目安（コシヒカリ）＞（肥料：一般米「追肥 3 号」、特別栽培米「なんと米有機穂肥」）

幼穂形成期（幼穂長 2mm）の生育					約 1 週間後	1 回目		2 回目	
稲の姿		草丈	葉色	茎数 (本/株) ※70株植	草丈	施用時期	10a当たり 施用量	施用時期	10a当たり 施用量
適正	葉が立つ ・らち間が すっきり見える	72cm 以下	3.8 以下	21本 以下		82cm 以下	幼穂長15mm ※幼穂形成期 から 7 日後	10kg	1 回目の 1 週間後
やや旺盛	葉がややメラつく	73～ 79 cm	3.9～ 4.2	22～ 25本	83～ 84cm	幼穂長20mm ※幼穂形成期 から 9 日後	7kg	1 回目の 1 週間後	12kg 〔特裁米は 12～15kg〕
過剰	葉がメラつく ・らち間が見え ない	80cm 以上	4.3 以上	26本 以上	85cm 以上	施用しない		幼穂長 10cm ※幼穂形成期 から13日後	12kg以下 ※生育に応じ て減肥

（2）てんこもり

- 必ず「幼穂長」、「草丈・茎数」、「葉色」を確認し、適切に穂肥を施用しましょう。

＜穂肥施用の目安（移植 てんこもり）＞（肥料：追肥 3 号）

生育の目安（幼穂形成期）		1 回目		2 回目	
茎数（株当り）	葉色	施用時期	施用量	施用時期	施用量
21～25 本	4.0～ 4.2	幼穂長 1～2mm 7 月 11～13 日頃	10kg/10a	1 回目の 10 日後	12kg/10a

4 早生の病害虫防除 ～今年もカメムシ多発～

- 散布は 7 日間隔を目安とし、10 日以上空けないようにしましょう。
- 適期に行い、畦畔にも薬剤を散布しましょう。
- 風の無い時を選び、周囲の作物への飛散に注意しましょう。

＜早生の防除の目安：一般米＞（出穂期：「五百万石」7 月 14～20 日頃、「雄山錦」7 月 18 日頃）

防除時期	対象	防除薬剤	散布量（10a 当り）	使用時期
1 回目	【穂揃期】 90%出穂 五百万石：7/17～7/23頃 雄山錦：7 月 21 日頃～	ラブサイドスタークル粉剤DL	4 kg	収穫 7 日前まで
		ラブサイドスタークルフロアブル	500倍、150ℓ 無人航空機 4 倍、0.8ℓ	
2 回目	【傾穂期】 1 回目の 1 週間後	キラップ粉剤DL	4 kg	収穫 14 日前まで
		キラップフロアブル	1000倍、150ℓ 無人航空機 16 倍、0.8ℓ	
3 回目	収穫の 14 日前まで 例) 8/20 収穫なら 8/6 まで	キラップ粉剤DL	4 kg	収穫 14 日前まで
		キラップフロアブル	1000倍、150ℓ 無人航空機 16 倍、0.8ℓ	

本田防除後のカメムシ侵入状況に応じて緊急情報（追加防除）を発出します。
3 回目防除を計画しておきましょう。